

ノートルダム清心中学校

入試科目	算数①	算数②	国語	理科	社会	総合	
試験時間	15分	35分	50分	30分	30分	—	
配点(予想)	*40点	*60点	100点	60点	60点	320点	
受験者平均点	62.5点		46.7点	34.2点	30.2点	191.2点	
合格の目安	得点	30点	34点	48点	35点	32点	179点
	(%)	75.0%	56.7%	48.0%	58.3%	53.3%	55.9%
昨年度との比較	横ばい	易化	横ばい	やや難化	難化	難化	

※算数その①と算数その②の配分は、当社予想

算 数

【算数その①】

- 1 (1)小数の計算 (2)小数・分数の計算 2 差集め算 3 平均 4 和差算 5 単位の計算
6 分配算 7 時計 8 角度 9 面積

【算数その②】

- 1 容器と水量 小問数：4 2 速さ 小問数：3 3 条件整理 小問数：2

今年の入試問題は、その①の難易度は高くなっていますが、配点が高いと予想されるその②の難易度が低くなっていたため、受験者平均点が上がったと考えるべきです。構成は、計算と一行問題の【算数その①】(試験時間 15 分)と、大問形式の【算数その②】(試験時間 35 分)の 2 本

立てとなっており、【算数その①】は例年通り 10 問、【算数その②】も昨年同様に大問 3 題・小問 9 問でした。過去問や鯉城学院の対策模試で練習を積んでいた受験生は安心して取り組めたと思います。

【算数その①】

①は小数の計算と、小数・分数の計算の2題です。去年と同じ難易度です。②は差集め算、③は平均の基本問題です。④は和差算の問題です。少し言葉をひねっています。⑤は単位の変換の基本の計算です。⑥は分配算です。丁寧に調べていきましょう。⑦は時計の問題です。問われている内容は難しくありませんが、「この時計が次に正しい時刻を表す」という表現を24時間後と勘違いして計算した受験生もいたと思います。⑧は角度の基本問題です。⑨は面積の問題です。重なっている部分をひく感覚があれば問題として難しくありません。円周率の計算をまとめて行い、計算ミスをしないうように気をつけましょう。例年は見慣れた、解きやすい一行問題が大部分を占めていましたが、今年は一問一問の難易度が少し上がっていました。見慣れた一行問題を時間内に素早く正確に解く練習をするだけでなく、色んな一行問題を経験していた受験生が、合格点まで届いたのではないかと思います。

【算数その②】

大問1は容器と水量に関する問題です。(4)までである大問なので、前半で計算ミスをするとかなり点数を失います。(1)は割合の基本問題です。確実に正解しましょう。(2)から(4)までの内容も難しくありません。計算ミスだけ注意して答えを合わせましょう。大問2は速さに関する問題です。ノートルダム清心中学校の速さの問題としては易しい問題となります。(1)、(2)は速さの基本問題です。

速さの3公式を使える受験生には正解することは難しくありません。

(3)はつるかめ算の基本問題になります。自転車で移動した時間を計算すると分数となりますが、(3)で求めたい道のりは整数になるので、この大問も全問正解を目指しましょう。

大問3は与えられた条件に従って買い物していく、普段の生活を題材にした問題となります。このような問題が他の学校にも見られます。カードにお金をチャージしたり、買い物をすると、ポイントがチャージされる条件(12歳の子供にはあまり馴染みはない気がしますが…)をしっかりと読み取り、問題を解いていきましょう。(1)は与えられた条件で計算していただけなので、条件さえ把握出来ていれば、難しくはありません。(2)は範囲を調べる問題です。

典型問題も出題する一方、しっかり条件を読まないと解けない問題も出題するという問題構成でした。今年も、算数その①のひとひねりしている文章問題で得点がとれなかった受験生も少なからずいたと思われます。しかしながら、昨年より算数その②が解きやすくなっていました。普段から最後まで諦めずに解ききる練習をしておけば力を出し切れたと思います。過去問で、算数その①は一行問題を素早く正確に解く練習をし、算数その②は典型問題だけでなく、考える問題や条件をしっかりと読み取る問題にじっくり取り組んでおけば、本番でも十分に力が発揮できるでしょう。

国語

- | |
|---|
| 一 青山美智子『鎌倉うずまき案内所』（物語文 約3800字 小問数9問 うち記述2問） |
| 二 中井久夫『時のしずく』（説明文 約3700字 小問数11問 うち記述1問） |
| 三 漢字の書き取り
(10問) |

ND清心中の国語は、2014年から説明文と物語文の大問2題構成が続いていましたが、2018年から、説明文と物語文に漢字の大問が加わり、大問3題構成となりました。受験者平均点を見ると、2018年は61.8点、2019年は50.4点、今年は46.7点となっています。昨年に引き続き難化傾向です。ND清心の国語の難易度をあげている理由は、長い選択肢の問題が多く本文と丁寧に対照しなければならないこと、長い記述問題で解答の方向性を見定めながら記述に必要な要素を読み取り、ひとつの解答としてまとめる力が求められること、漢字の書き取りに難しい出題があること、そして特に説明文が非常に難しい内容であることなどがあげられます。

大問一は、中学三年生の「いちか」が主人公の物語文です。友人から仲間はずれにされたくない「いちか」は、友人の顔色をうかがいながら行動していますが、クラスメイトの男の子「乃木くん」が転校するのをきっかけに、友人に左右されずに、自分が大切だと思うことを曲げずに行動するのを決意する場面からの出題です。文章自体は読みやすいものでした。では、設問を見ていきましょう。問一は、適語補充の問題で、小学生にはあまりなじみのない「無常」を選択する問題の難易度が高かったと思われます。問二は、友人の顔色をうかがった行動の理由を答える四十字以内の記述問題でした。さほど難易度は高くなく、部分点はしっかり取らなくてはなりません。問三から問六は記号選択の問題が続きます。問三は「比喩表現」の説明、問四から問六は「心情」の説明です。問七は、100字の記述問題です。ND清心中は毎年「長い記述」を出題し

ますから、受験生は十分に練習して臨んだはずですが、解答をまとめるためには傍線部よりずいぶん前の場面をおさえる必要があり、難易度は低くなかったと思われます。とはいえ、何とか食らいつき部分点はしっかりとりないと合格ラインはクリアできないでしょう。問八は昨年からの出題された新形式の対話形式の記号選択問題で、正しい発言を選択させる問題は標準的なレベルでした。

大問二は、阪神・淡路大震災でのボランティアの体験を元に書かれた説明文です。前半ではボランティアの倫理的根拠を、後半では日常と非日常でのボランティアの違い、ボランティアと行政の関係について考察された文章で、用いられる言葉が難しく、非常に難易度の高い文章であったといえるでしょう。問一は、漢字の書き取りで、特に難しい問題はありません。問二は、言葉の意味を選択する清心の定番問題ですが、「地団駄を踏む」「草の根」はいずれも難しく、特に「草の根」は多くの受験生にとってなじみのない言葉であったと思われます。前後から意味を推測する力が求められます。問三から問五は記号選択の問題で、いずれも傍線部の意味内容を把握する問題でした。問六は80字の記述問題で、「ボランティアが、魚が水の中に泳ぐように動ける世界であった」という比喩を用いた部分を説明する問題です。「ボランティアにとって活動しやすい環境であった」というような内容を最低限書いて、部分点を必ず取らなくてはならない問題です。問七は内容理解の記号選択、問八は内容一致の記号選択問題でした。

大問三は漢字の書き取りの問題で、十題の出題のうち「順延」「形相」

「方便」「正夢」という四題は難しかったです。

しっかりした読解力、粘り強く解答をまとめる記述力、細かな表現も見落とさず本文と選択肢を照らし合せられるていねいさ、そして「大人

の言葉」に慣れ親しんでいるかどうか、これらを高いレベルで求めるのがND清心中の国語です。この問題に対応するためには、十分な訓練が必要です。

理科

- 1 地学分野から、Ⅰ. 天気の変化 Ⅱ. 台風の進路 に関する問題 (小問 8)
- 2 生物分野から、Ⅰ. Ⅱ. ホウセンカの種子と発芽の様子・発芽の実験・観察 に関する問題 (小問 6)
- 3 化学分野から、4 種類の物質が水に溶ける際の熱の出入り に関する問題 (小問 6)
- 4 物理分野から、コンデンサー・手回し発電機 に関する問題 (小問 6)

ND清心中の入試問題は、今年大きな変化がありました。試験時間が、40分から30分に、配点が80点から60点となりました。かつての難問揃いの入試を経て、近年は、とうてい時間内には解ききれないような難問や小学生の発想では及ばないような奇問の類は影を潜め、受験生の単元学習の成果を正しく判断できる問題に変わってきていました。とはいえ県内最難関の女子校なので決して易しくなったわけではなく、受験者平均点は5割程度を維持していました。そして、今回の変更で当然、入試問題の量やレベルは変わってくるはずですが、では結果はどうだったかということ、確かに問題数は減少しましたが、時間短縮との相関を考えると適当な量だと言えます。そして、その内容とレベルですが、近年の入試問題と大きく変化はしていません。今までの入試問題のレベル、内容は、ほぼ変わらず、75%に縮小したイメージだと言えます。

1 天気の変化と台風の進路についての問題

Iは、ひまわりの画像の雲の動きから、時間の経過を考える問題と気温の変化からおよその天気を推定する問題です。両方で合わせて考えて

いくと互いが手掛かりになります。IIでは、台風の風向(反時計回りに吹き込む)と進路を考えながらの風速の強弱を判断する記述も含んだ思考問題です。

2 ホウセンカについての問題

I. 問1・3はホウセンカについての詳しい知識がなくても、選択の対象となっている他の植物の方が受験生にとってはおなじみなので、消去法で解決します。II. 発芽の3条件の知識だけを使う内容で、資料や実験データをしっかり読み取り、その場で分析する同校らしい思考問題です。

3 水に溶ける際に熱を放出するのか吸収するのかを考える問題

前半は、普段使っている保冷剤と冷却パックの仕組みと熱の出入りを考える問題で、身の回りの現象と受験知識をつなげることができたかどうかポイントになります。後半も同校らしい問題で、異なる4つの物質が水に溶けるときに熱の出入りが起こり、水温が上がったり、下がったりする実験結果からその決まりを読み取れる内容です。ここもしっか

りとした分析力が問われました。問5では算数の「つるかめ算（連立方程式）」を使うなどの解法の工夫が求められていますが、試験時間を考えるとここはパスしてもよいでしょう。

4 手回し発電機とコンデンサーの問題

今年の流行？なのか、どれだけの中学校で出題するのか、夢にまで出てきそうです。ただ、そんな中で「コンデンサー」にスポットを当てて、詳しく作問したのは同校だけです。そして、その手法も同校らしく受験知識はほとんど不要で、仮想実験の内容をしっかりと理解し、結果を正し

く導くことが必要な思考力を問う問題だといえます。

今年の入試変更で、もしかしたら問題が易くなるのではないかと期待した受験生もいたかもしれません。しかし、問題の傾向や作問の手法はこれまでのものと変わっていないといえます。4つの大問のすべてが、受験知識だけでは対応できない思考問題を含み、受験生を悩ませたことは間違いありません。小問数は明らかに減っているため、その減少分と時短との兼ね合いでの時間配分が重要で、勇気をもって、後回しにする問題を短時間で判断することも大切です。

社会

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 | 《地理》日本の産業・気候・貿易・世界地図に関する問題（13問） |
| 2 | 《歴史》縄文時代の長さ・文化史・戦後の出来事についての問題（5問） |
| 3 | 《歴史》江戸時代の百姓一揆・大正時代の米騒動に関する問題（7問） |
| 4 | 《公民》内閣総理大臣、参議院議員選挙、憲法改正、時事に関する問題（9問） |

2020年度のノートルダム清心中学入試は、これまでとは違い、試験時間が40分から30分になりました。出題分野も歴史・地理・公民の順が地理・歴史・公民に変更になりました。また昨年は大問3つ構成でしたが、大問4つ構成に戻りました。問題数は34問でした。地歴と公民の問題の出題比率はおよそ7：3の割合で出題されています。問題数の内訳は、記号選択(18問)・語句記述(11問)・文章記述(5問)となっています。難易度は昨年より易化しました。

1は地理問題でした。図から巻き網漁法を答える問題や日本海側の気候の特徴を選択し答える問題、輸入総額に占める割合が高い上位3品目の表から国名の組み合わせを選択する問題など、基本的な問題が多く出題されました。昨年同様に世界の国々についても出題がありました。大陸名・赤道の位置や香港の位置を問う問題は、地図帳で確認していれば

難しくはありません。問6の広島県を中心とした地図から縮尺を答える問題は、受験生の中には戸惑う生徒が多かったかもしれません。

2・3は歴史問題でした。「ノートルダム清心の社会」といえば、歴史分野の難易度が高いことが大きな特徴でしたが、今年は比較的答えやすい問題が多く出題されました。ただし単純な暗記ではなく、細部までの事項の確認・定着が必要となることは変わりません。縄文時代の期間・時代と文化の内容が異なるものを選択する問題・年代を古い順に並べ替える問題など、語句暗記だけでなく、周辺知識を整理しておさえていた受験生は、自信をもって答えることができたはずです。

また百姓一揆についての会話と【資料】の内容を使って、会話文中の「一揆」に関する反対意見を述べる問題、米騒動に関する【新聞1～3】と地図を参考に、政府が米騒動の報道を禁止した理由を答える問

題、新聞社が空白がある状態で新聞を発行した理由を答える問題など、記述問題も制度や仕組みの説明ではなく、しっかりと考えさせ、自分の言葉で説明をすることを求めています。

④は内閣総理大臣、参議院議員選挙、憲法改正、時事に関する問題でした。ここでは基本的な問題が多かったです。内閣総理大臣に関しての正誤問題、参議院議員選挙の正誤問題、憲法改正についての問題などが挙げられます。

2020年度のノートルダム清心中学入試合格のカギは、次の2点でした。

まず、基本問題や資料読み取り問題をいかにしてミスなく正確に解いていくかです。「考える」習慣は思考力を鍛え、より精度の高い記述力

に繋がります。問題文や選択肢自体の文量が多くなっています。流し読みをしてしまうと、引っかかってしまう問題がありました。「思い込み」で解かないように、精読する習慣が大事になってきます。

また、時事に関する問題が分野問わずに出題されました。リニアモーターカーやデモ運動のあった香港の位置、参議院議員選挙、G20首脳会議、軽減税率、大阪・関西万博のテーマなどです。出題されたものは決して難問ではなく、いわゆる「一般常識」のレベルなので、興味・関心を持ち、もう一步深く掘り下げて学習すること(地図帳で国名を確認してみる・語句の意味を調べてみるなど)、一つ一つ丁寧に取り組む必要があります。